

除雪ステーションを有効活用した「サイクル拠点」社会実験について

羊蹄二セコ自転車走行協議会

(倶知安町、ニセコ町、蘭越町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町)

1. はじめに

北海道の南西部、札幌市から車で2時間程の距離に、標高1898mの羊蹄山という単独峰があります。

羊蹄山は北海道を代表する山で、えぞ富士とも呼ばれています。その羊蹄山を囲むように、倶知安町、ニセコ町、蘭越町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町の7町村が位置しています。



羊蹄山麓は、北海道を代表する豪雪地帯で、毎年の積雪量は 150cm から 200cm におよび、倶知安町では、昭和 45 年に 312cm の積雪を記録しています。

このような豪雪地帯にあって、冬季間の道路除雪は、安全な住民生活や安定した物流経路を確保するうえで大変重要なものです。国道、道道、町村道それぞれの道路管理者は、万全の体制で冬季間の除雪を行いますが、その拠点になるのが「除雪ステーション」で、除雪ステーションには道路除雪に必要な除雪車両が格納されているほか、運転手、作業員などの休憩舎が併設されています。このような除雪ステーションは、北海道内の国道、道道沿いに数多く設置されていますが、当然のことながら、非降雪期はほぼ利用されない施設となっています。

今回の社会実験は、除雪ステーションを「サイクル拠点」とすることで、非降雪期の有効活用方法のひとつとして検証するものです。

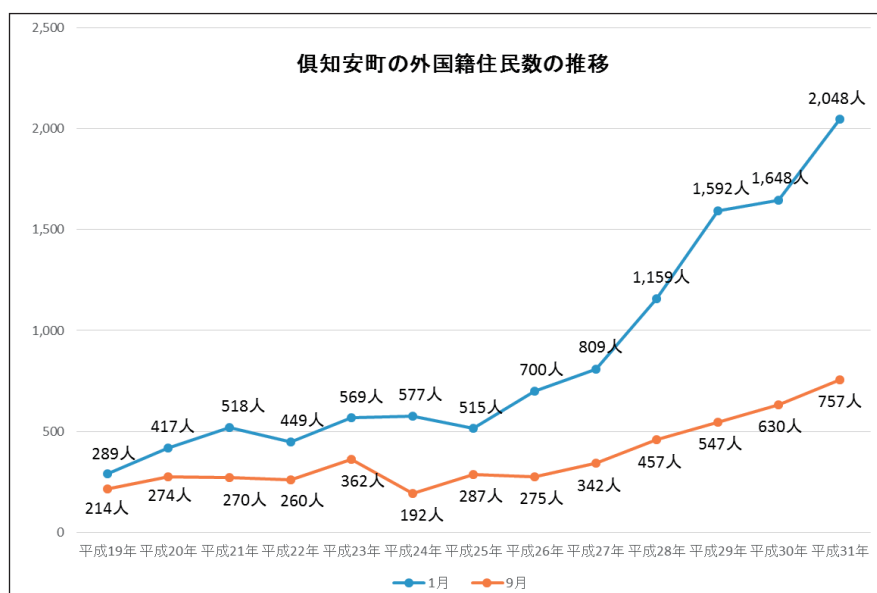
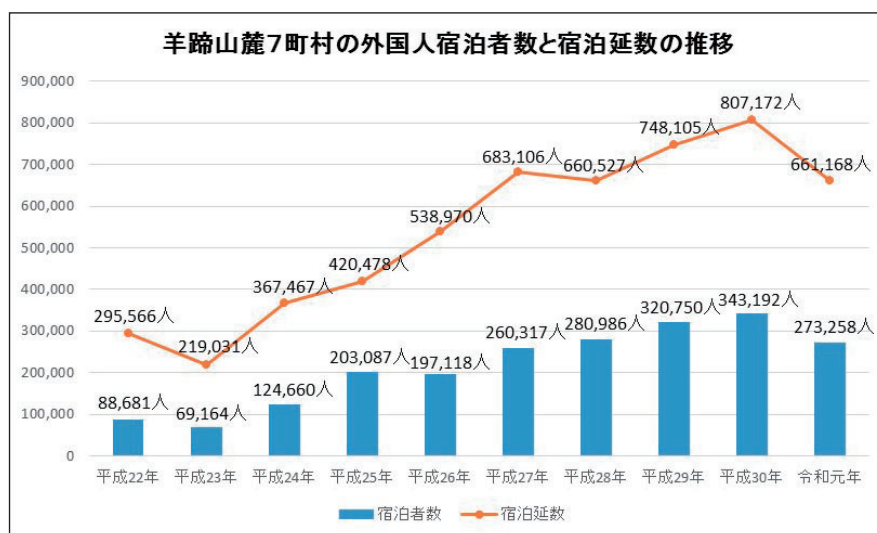


■除雪ステーションには除雪車両を格納する大型車庫が設置されている

2. 北海道を代表するサイクルエリアへの成長と新たな課題

今回の社会実験の舞台となる「羊蹄ニセコ」エリアは、世界有数のスキーリゾート地であり、パウダースノーや長期滞在が可能なコンドミニアム型ホテルを要因として、近年外国人観光客が急増し、日本を代表するインバウンド観光地に発展しています。それに伴って、冬季間スキー場や宿泊施設などで働く外国人も増えており、なかでも倶知安町は、1月末の外国籍住民数が人口の1割以上を占めています。

多くの外国人従業員は、ワーキングホリデーで入国しているため、スキーシーズンが終了する3月から4月にかけて帰国するのですが、なかには就労ビザの関係や国際結婚などによって通年でこのエリアに居住する外国人が年々増えています。



こうして外国人がこのエリアに多く居住するようになると、衣食住を含めた外国人のライフスタイルが、エリア内に徐々に浸透していくことになりました。そのひとつが、ロードバイクやMTBなどの自転車文化や習慣でした。今では、朝夕や週末など、羊蹄ニセコエリアでサイクリングを楽しむ姿が日常的に見られるようになりました。

また、このエリアでは、2019年で6回目を迎えたニセコクラシックレース（1,300人のアマチュア選手が参加するUCI（国際自転車競技連合）傘下の市民レース）や、同じく2019年で10周年を迎えたニセコ HANAZONO ヒルクライムレースのほか、様々なサイクルイベントを開催して、サイクルツーリズム

による夏季の観光振興を図ってきました。そのため、羊蹄ニセコエリアは、国内外からサイクリストが訪れる北海道を代表するサイクルエリアへと成長しました。

しかしながら、このエリアに多くのサイクリストが訪れるようになったことによって、新しい課題も出てきました。そのひとつが、サイクリストによる道の駅駐車場での長時間駐車です。

サイクリング時間は走行距離によってそれぞれ異なりますが、サイクリストによっては、道の駅を発着点として、朝から夕方まで羊蹄ニセコエリアでのサイクリングを楽しむこともあり、その間は道の駅に車を駐車したままとなり、週末や夏休みなど道の駅が混み合う日にあっては、サイクリストの長時間駐車が駐車場の混雑を助長することになっていました。

そのため、今回の社会実験では、道の駅・ニセコビュープラザ※から約 300m 離れた場所に隣接する除雪ステーションをサイクル拠点に設定し、サイクル拠点としてサイクリストに必要な情報提供やメンテナンスサービスのほかに、サイクリストがサイクル拠点を発着点とできるように、長時間の駐車が可能な駐車スペースを用意して、間接的に道の駅駐車場の混雑緩和を図ることにしました。

※ニセコ町 道の駅・ニセコビュープラザ

ニセコ町の道の駅・ニセコビュープラザは、平成 26 年に国土交通省から「重点道の駅」に選定されたほか、2016 年トリップアドバイザーの「行ってよかった！道の駅ランキング」全国 3 位にランキングされるなど、全国的にも人気の道の駅となっている。



■道の駅・ニセコビュープラザ



■休日は道の駅の駐車場は混雑する

3. 社会実験の概要

今回の社会実験は、道の駅・ニセコビュープラザから約 300m 離れた、国土交通省・北海道開発局の小樽開発建設部が所管する「ニセコ除雪ステーション」をサイクル拠点として開放し、駐車場のほか、サイクリストの発着地として羊蹄ニセコエリアのサイクルコース案内やグルメ情報の発信、自転車用品・飲食の販売、休憩・着替えスペース、レンタサイクル、自転車修理サービスの提供を実施するとともに、施設の利用状況調査を行いました。

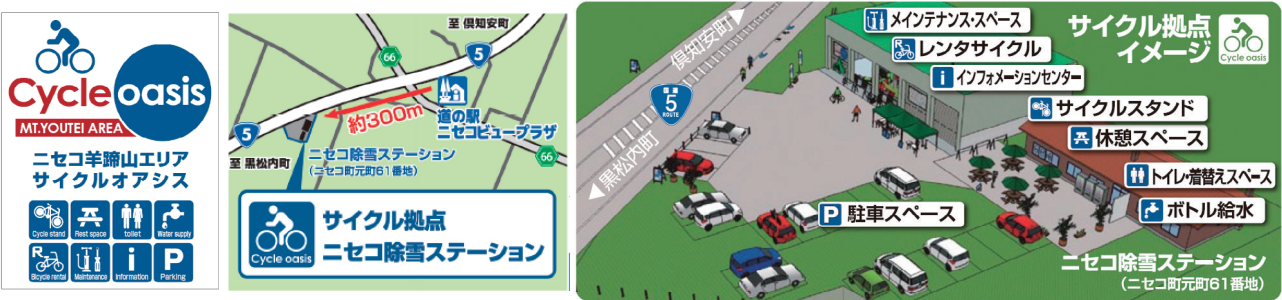
社会実験の事業主体は、羊蹄ニセコ自転車走行協議会（通称：YNCA）です。YNCA は、サイクルツーリズムによる経済効果を羊蹄山麓に広く波及させるため、山麓 7 町村の自治体、観光協会、経済団体、金融機関、路線バス事業者が構成員となる協議会です。

なお、今回の社会実験は国土交通省「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験」に採択されたことから、除雪ステーションの施設管理者でもある小樽開発建設部と協働して事業を進めていくこととしまし

た。

社会実験の実施期間は、令和元年9月14日から10月14日とし、実施期間中、サイクリストの利用が多い土日及び祝日に施設を開放して、実施することにしました。

利用状況調査の内容としては、隣接する道の駅・ニセコビュープラザの駐車場には、普通車56台、大型車4台、身障者2台の駐車スペースが設置されていますが、休日はほぼ満車状態であることから、除雪ステーションに駐車された駐車台数を集計することで、間接的な道の駅駐車場の負担軽減効果について検証を行うほか、サイクル拠点でのサービスについての満足度調査、ニーズ調査を行うこととしました。



項目	サイクル拠点でのサービス内容
駐車場	土日祝（午前7時～午後5時）に無料開設
サイクルスタンド	道の駅、サイクル拠点に設置
情報提供	観光情報、路面情報、グルメ情報の発信
休憩スペース	屋内外に休憩スペースを設置（無料）
トイレ	休憩舎の男女のトイレを開放（無料）
着替えスペース	休憩舎内に着替えスペースを設置（無料）
飲料水提供	期間中、休憩舎の水道施設を開放（無料）
メンテナンスサービス	工具設置及び常駐スタッフ配置（無料）
レンタサイクル	電動自転車のレンタル（2時間：2,500円 4時間：3,500円）

調査項目	調査方法
道の駅駐車場の負担軽減効果	駐車台数の集計
サービス満足度調査	拠点施設、サービス内容に関するアンケート調査
除雪ステーション維持管理費の財源充当となる収益性	飲食物等の売り上げ調査



■ 9月14日関係者によるオープニングセレモニー

4. 広報・周知及び関連事業

今回の社会実験では、除雪ステーションをサイクル拠点として、より多くの方に利用してもらうため、報道発表やYNCAのHP、ブログ、SNS、近隣の商業施設や地域でのイベント等でチラシを配布するなど、実施期間中、絶えず広報・周知に関する活動を行いました。

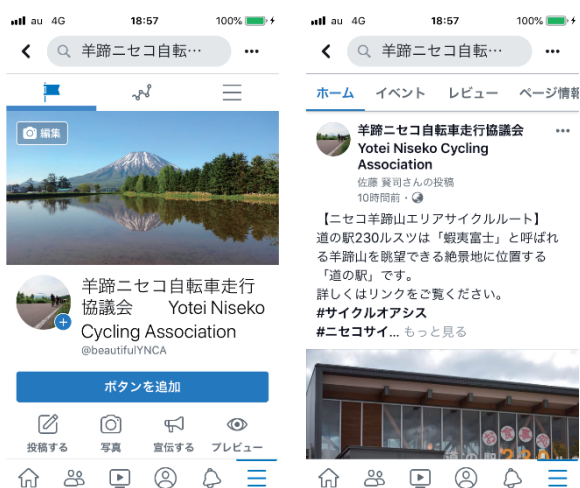
また、9月14日には関係者によるオープニングセレモニーを実施し、9月21日には、20年振りにサイクルイベント「羊蹄一周ワンダーサイクリング」を復活開催し、サイクル拠点を発着点としました。「NEO羊蹄一周ワンダーサイクリング」と名づけられたイベントには、道内外から60名の自転車愛好家が参加して、羊蹄ニセコエリアでのサイクリングを満喫したほか、ゲストライダーとして「ちゃりん娘」を招聘し、彼女達によるサイクル拠点及び羊蹄ニセコエリアの魅力発信も行いました。

さらに、社会実験期間の前後の取り組みとして、多くのサイクリストを受け入れる走行環境整備として、道路管理者、地元サイクリスト、羊蹄山麓町村のサイクルツーリズム担当者が官民一体の協働事業として、国道5号線沿いの草刈作業を実施したほか、社会実験終了後には、令和元年11月2日から令和元年11月4日まで、千葉県幕張メッセで開催されたサイクルモードインターナショナル2019に出展し、除雪ステーションをサイクル拠点とする社会実験の取り組みを来場者に紹介しました。

【Instagram】



【フェイスブック】



■ NEO 羊蹄一周ワンダーサイクリング参加者による記念撮影



■ サイクルモードインターナショナル 2019 出展ブース

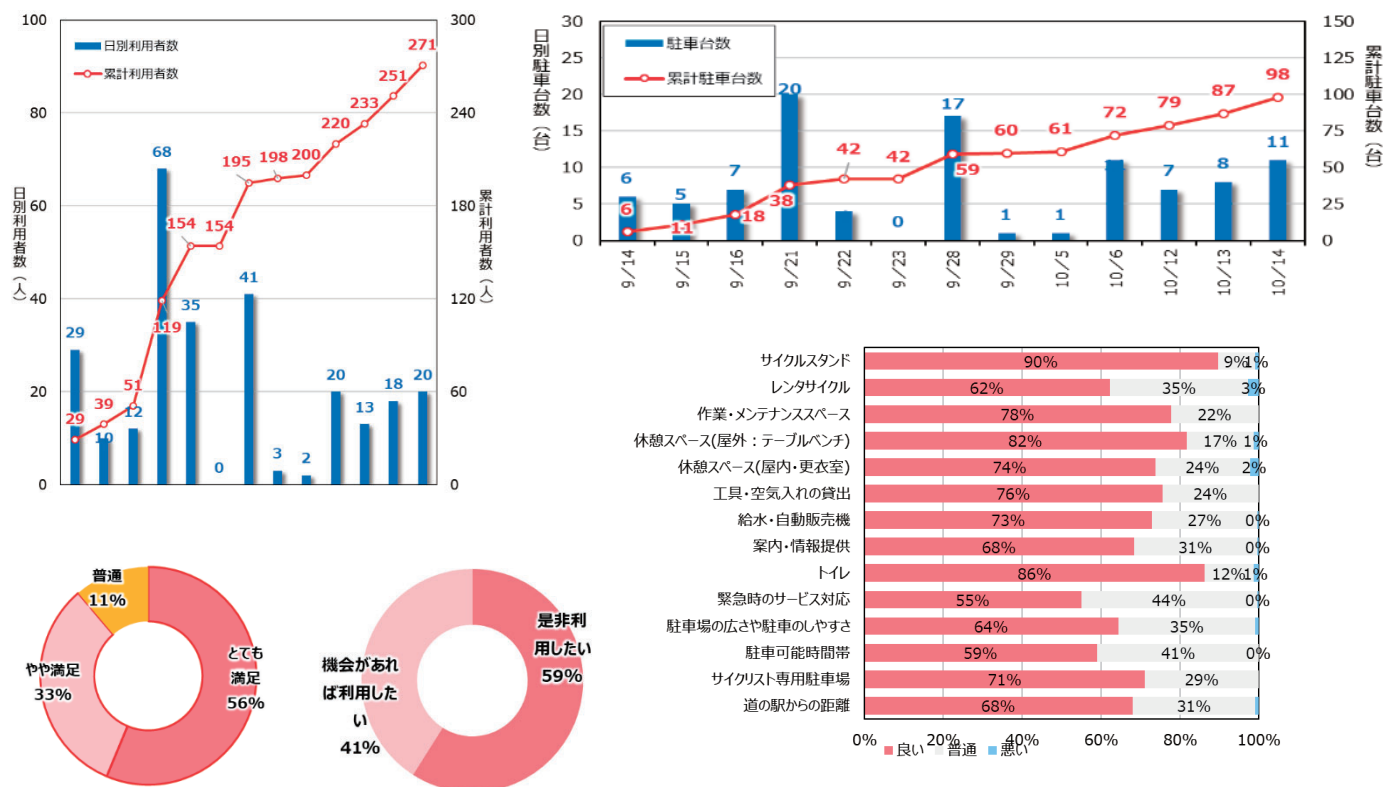
5. 実証実験の結果

今回の実証実験では、期間中累計で 271 人がサイクル拠点を利用しました。最も利用が多かったのは、9 月 21 日の NEO 羊蹄一周ワンダーサイクリングでしたが、イベントが開催されていない開設日においても一定数の利用があり、開設日 1 日当たりの平均利用者は約 23 人という結果になりました。

新たな課題への取り組みとなった道の駅駐車場の混雑緩和については、サイクル拠点の駐車場利用台数が期間中累計で 98 台となり、台風等で悪天候だった 3 日を除いて 1 日約 10 台の利用がありました。この結果から道の駅の負担軽減効果を直接的に実証することは難しい状況ではありますが、サイクル拠点の駐車スペースを利用したサイクリスト、あるいは、サイクル拠点を利用したサイクリストからは、専用駐車場の設置について高く評価されており、また、サイクル拠点の利用動機についても、「サイクリスト専用駐車場がある」が 48%であったことから、今後も継続して開放することで、一般の観光客や道の駅利用者は道の駅の駐車場を利用、サイクリストは除雪ステーションの駐車スペースを利用、というような差別化により、飽和状態にある道の駅駐車場の混雑緩和、特にサイクリストによる長時間駐車を減少させることができるものと期待されます。

サイクル拠点で行ったサービスについてのアンケート調査結果では、サイクルスタンドの評価が最も高く、次いでトイレや休憩スペース、工具の貸し出しの評価が高くなりました。また、サイクリング頻度が年 1 回以下のライトユーザーからは、レンタサイクルやメンテナンスサービスが高い評価を得ました。

サイクル拠点としての総合的な満足度を見ても、約 90%の利用者が「とても満足」、「やや満足」と回答しており、さらに利用者全員が再利用したいと回答しているなど、総じて、今回の除雪ステーションをサイクル拠点として活用することについては、将来的展望も含めて、よい結果を残して終了することが出来たと考えています。



6. まとめ

今回の除雪ステーションをサイクル拠点として活用する実験は、幅広いサイクリストから高い評価を得ることができました。特にサイクリストにとって駐車場を他の観光客や駐車時間を気にせず使えることは、とても有意義なことと考えます。

その一方で、除雪ステーションをサイクル拠点とするには課題も多くあります。特に大きなものとしては、除雪ステーションは「道路施設」と位置付けられ、施設敷地が「道路の一部」という取り扱いになることから、使用にあっては様々な制限がかけられます。そのため、道路管理者の協力がなければ活用そのものが難しくなります。この他にも休憩舎の鍵開錠や維持管理の問題もあります。

冬季間、11月下旬から4月中旬まで雪に覆われる豪雪地帯にあっては、通年でサイクリングを楽しむことが出来ないハンディキャップがあります。しかし、冬季間、雪に覆われる北海道には、国道、道道沿いに数多くの除雪ステーションが設置されており、その全てが非降雪期にはほとんど使用されていない遊休施設になっています。それらが、国内外から来道するサイクリストに様々なサービスを提供するサイクル拠点として活用することができたなら、サイクルツーリズムを推進する上で、雪のハンディキャップを克服するサイクル環境として、景色や食べ物にならぶ北海道の新たな魅力となるものと考えます。近い将来、北海道に除雪ステーションを活用したサイクル拠点がたくさん開設されることに期待しています。

